



# 栄小学校だより

令和5年7月20日(木)

No.20

## ○1学期が終了しました

18日(火), 19日(水)の「あゆみ渡し」が終了しました。担任からお渡しした「あゆみ」は、子どもの現在の学習や生活の状況を表しています。懇談でお話した内容を各ご家庭でじっくりと時間をかけてお子さんとお話をしていただき、今後の「生活・学習等」に役立てていただきたいと思います。

本日、終業式を行いました。終業式では、校歌斉唱の後に校長からの話と生活指導担当より「夏休みの生活」についての話をしました。明るく元気に過ごして、楽しい夏休みを送ってほしいと願っています。

※7月21日(金)～8月31日(木)までが夏休みとなります。<授業日8月25日(金)>

## ○音楽交流会(1年・3年)

7月14日(金)の5限目に1年生と3年生が音楽室にて、「音楽交流会」を行いました。この授業は、「異学年交流」の一環で、音楽の授業等で学習した事を他学年に発表することで表現方法の工夫や表現力向上につながるものと考えています。

今回の授業では、3年生より「リコーダーの演奏」、「いろんな楽器を使っての合奏」、1年生からは、お返しに「朗読合唱おむすびころりん」を披露しました。両学年とも、他学年発表ということで、普段の授業にはない緊張がありましたが無事に発表できたと思います。

最後は、1年生と3年生がいっしょになって、「茶摘み手遊び」を音楽に合わせて楽しく行ないました。とても素敵な発表会でした。



## ○ひまわり学級 特別授業

7月13日(木)の1限目にひまわり学級で外部講師をお招きして特別授業を行いました。講師の先生は、音楽療法士の桐生小百合先生です。桐生先生には、手作り楽器等を用いながら音楽を通して音楽の楽しさや表現力を学ぶ体験型授業を行っていただきました。

参加した子どもたちは、タイミングをはかりながら楽器を操り、みんなでひとつの作品を作り上げていました。



# ○シャボン玉遊び

7月12日(水)に、1年生が運動場で「シャボン玉遊び」の授業をしました。昨年度までは、栄幼稚園との交流授業でしたが今年から単独授業となります。

この日は、とても暑い日でしたので、暑さ対策として、なるべく日陰で、水分補給をしっかりと、短い活動時間で行いました。やや風がある中での授業でしたので、きれいに作れるか心配でしたが、みんな、集中して大きなシャボン玉を作っていました。

虹色に輝くシャボン玉はととてもとても美しく、素敵なシャボン玉が作れたら「見て！見て！」と笑顔いっぱい声掛けをする子どもたちをほっこりとした気持ちで見守っていました。



## ☆特集 保護者に向けた 「親塾シリーズ7」

夏休みを有意義に過ごすための5つのポイント

有意義な42日間にするために保護者と子どもで夏休みの過ごし方について話し合ってくださいと思います。今回のテーマは、「夏休みを有意義に過ごすための5つのポイント」です。

### 1 やりたいことを書き出す

はじめにやりたいことを書き出しましょう。このとき、親が勉強しなさいと押し付けるのではなく、子供にやりたいことを書き出させることが重要です。自分がやりたいことを行うことにより成長が見込めます。やりたいことがない子供にも、考えるきっかけを与えられます。できるだけ、親が干渉しないことで、自主性を育てましょう。

### 2 目標を決める

夏休み中に達成する目標を決めます。長期休暇だからこそできることや、お手伝い・早寝早起きなどの身近なことで構いません。チャレンジして達成することによって、子供の自信につながります。自分に自信がつけば、さまざまなことにチャレンジしようという気持ちが強くなるため、1~2個目標を作っておくとよいでしょう。

### 3 計画を立てる

夏休み全体を通した計画と、1日の計画を立てましょう。1日の計画は、起きる時間・勉強する時間・自由時間・寝る時間などを決めます。計画を立てることにより、学校がなくても規則正しい生活ができます。

### 4 普段できないことにチャレンジする

普段はできないようなことにチャレンジしましょう。夏休みは普段とは異なり、時間がたくさんあります。夏だからこそできるようなことにチャレンジするとよいです。家族と一緒に多様な体験をすることは、子どもの健やかな成長を促し、自尊感情や外向性の高い子どもに育つとの報告があります。保護者の方が、意図的・計画的に機会を設けてほしいと思います。

### 5 規則正しい生活をする

夏休みは規則正しい生活を心がけましょう。生活リズムをキープし続けることは大変で、長期休暇の場合ついつい緩みがちです。生活リズムが崩れてしまうと、学校が始まった際に朝起きられない、夜更かしの習慣が抜けないといったトラブルにつながります。学校生活があるときと同じリズムで過ごすことが大切です。